

母乳育児の利点学ぶ

こそだてシップの講座

大船渡

気仙2市で活動を展開するNPO法人こそだてシップ(伊藤恰子理事長)の母乳育児講

座は11月30日、大船渡市盛町の市保健介護センターで開かれた。育

児中の母親や、子育てにかかわる行政関係者ら合わせて43人が受講し、母乳で子どもを育てる利点などを学んだ。

この講座は、気仙地

域の母親が不安なく子育てできるようにとい

う思いを込めて実施。気仙3市町と大船渡保健所、県立大船渡病院、いわて母乳の会が後援した。

この日の講師は、母乳育児の第一人者である、さかいたけお赤

合つことと熱弁。このうち離乳食については、「食べなくて



主催 NPO 法人こそだてシップ

やんこもクリニック(仙台市)の堺武男院長。「母乳育児は支え合い育児、ヒトが人間(ひと)らしく生きるために」と題し、さまざまな見地から母乳育児の良さを訴えた。

も焦らなくていい。育児書の内容などにこだわらず、赤ちゃんのペースに合わせて。なによりも楽しく食べるのが大切で、そういった食事が食育につながります」と述べた。

母乳育児の良さをさまざまな見地から訴える堺院長は保健介護センターで、熱心に学んでいた。受講者らは真剣な表情で堺院長の話を楽しみながら、熱心に学んでいた。現在2人目の子どもを母乳育児中だという上野由希子さん(33)は、「子どもがなかなか離乳食を食べしてくれず、母乳をあけているからだ」と言われることもありましたが、きょうの講演を聞いて安心しました。焦らなくても大丈夫だとわかったので、そのようにしたいです」と笑顔で話していた。

このあと、大森貝塚を発掘したことで知られるアメリカの動物学者エドワード・S・モリスが、明治時代の日本について「日本ほど赤ん坊のために尽くす国はない」などと記述していたことや、山形県出身の歌人・斎藤茂吉が母を亡くした際に詠んだ歌を紹介。「母乳育児は親と子の生涯